

福島大学・人間発達文化研究科地域文化創造・芸術文化領域

作曲研究室（横島研究室）

*作曲研究室ではありますが、「主に作曲、作品分析の領域での研究だが、音楽創造に関わる事柄（管弦楽法、演奏史、音楽史等）についても研究を進める。」とあるように、創造に向けての研究を扱います。

現在、院生として作曲研究室に所属して研究を進めているHさんは、G. フォーレの作品の研究を和声面・旋法面から進めています。



現在進行中の H さんの研究概要の一部には「分析をしていくなかで、自分が教会旋法であると解釈するところを別の文献では旋法ではない解釈をしているものを見つけ、実際のところフォーレはどの程度教会旋法の影響を受けているのかについて検討が必要であると考えた（「教会旋法」とは、中世ルネサンス期の音楽、とくにグレゴリオ聖歌に用いられる音階のことである）。そこで、様々な理論家によるフォーレの歌曲の分析を比較し分析の方法をまとめたが、理論家によって音階と旋法名の呼び方にばらつきがあったため、各理論家はどの時代の音階とその名称を用いているのか調べることにした。それに伴い、フォーレが青年期に所属していたニデルマイエール音楽学校（パリに位置する、聖歌・オルガン・作曲技法などを学ぶ学校）での音楽教育とフォーレについて言及した先行研究などを参照しつつ、まずは古代ギリシャの音楽理論まで遡って旋法の変遷を整理

することとした。その上でニデルマイエールの音楽理論を翻訳してまとめ、フォーレの作品がニデルマイエールの音楽理論の影響を受けていることを分析により明らかに」する。としています。

H さんのフォーレ作品研究は、作曲作品に活かされており、「未来の作曲家コンサート in 東北」には、毎年入選しています。2019年8月に発表された「チェロ・ソナタ」は仙台フィルの首席チェリスト、吉岡知広氏により初演されています。

H さんのフォーレ作品研究は、作曲作品に活かされており、「未来の作曲家コンサート in 東北」には、毎年入選しています。2019年8月に発表された「チェロ・ソナタ」は仙台フィルの首席チェリスト、吉岡知広氏により初演されています。



←チェロソナタ第2楽章から、楽譜の一部